兵庫県におけるツツイトモの新産地

水 田 光 雄*

Mitsuo Mizuta: New locality of *Potamogeton panormitanus* Biv. in Hyogo Prefecture

はじめに

筆者は先に、神戸市東灘区南部埋立地(通称: 六甲アイランド)において、公園の付属施設として作られた人工池で、我が国の保護上貴重な植物 (絶滅危惧 I A類)である本種の生育について報告した(水田、1999). その後、神戸市の担当課へ本種の生育について通報した. 現在、特別な保護啓蒙の動きはないものの、当地で生育を続けている.

この様な状況の中で、今回、本県において新た に本種の生育が判明したので、新産地として報告 する。報告にあたり、本種の同定をしていただい た神戸大学の角野康郎先生にお礼申し上げます。

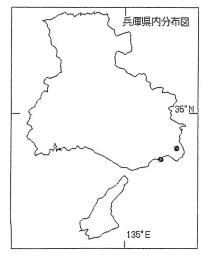


図1. 兵庫県のツツイトモの分布図



図2. ツツイトモの生育地(2000年6月10日撮影)

所在地及び生育環境

当該種は、伊丹市瑞ヶ丘4丁目瑞ヶ丘公園内で、 当該公園の付属施設として作られた、幅1~2m、 全長500m程の水路で生育している。この水路は、 コンクリート製で深さ20cm程度、底には土砂が堆 積しており、流れ込む水は、隣接の瑞ヶ池の水が 循環するように作られている。この水路に沿うよ うに、遊歩道が作られ、「たんたん小道」と称し 市民に親しまれている。瑞ヶ池は、当市の飲料水 や農業用水等に使用されており、全く水草類の生 育がない。また、西側の昆陽池と並び水鳥が多数 飛来するため池である。なお、当該公園の水路は 1988年3月に作られ、市の公園緑地課が管理し、 冬季(12月~1月)には清掃を兼ね、毎年、水が 抜かれるなど特殊な環境である。

発見のいきさつ

1991年4月、転勤とともに伊丹市民となった。

^{*}神戸植物防疫所

当時,私の休日はフィールドワークとして市内及 び周辺地域の植物調査(特に帰化植物,水草)を 実施していた.

今回生育の見られた「たんたん小道」の水路は、 当時数回は調査していたものの、乏しい同定能力 に加え、まさか絶滅危惧種であるツツイトモが生 育していることなど考えもしなかった。形状から ホソバミズヒキモの浮葉のないものと思いこんで いた。その後も数回当地へ出向いていたが、認識 できずにいた。

1999年10月,この水路をとおりすがりに見たところ,ホソバミズヒキモにしては少々違う形状をした花穂が水面から出ていた。神戸市のツツイトモを見ているものの半信半疑,同年12月神戸大学の角野研究室へ持参した結果,ツツイトモであることが判明した。これにより,伊丹市での生育は神戸市の生育地より,6年も早い時期に生育を確認していたことになり,兵庫県における最初の産地となった。その後2000年,2001年も生育を確認している。

その他

伊丹市は兵庫県南東部に位置し,東に猪名川, 西に武庫川,中心部には水鳥の観察地として名高

い昆陽池, 瑞ヶ池がある. 当市北部の西池, 黒池 はオニバスが出現する池として知られ、毎年生育 するなど, 阪神間きっての水辺環境に恵まれた地 域である。また、市内一部の水田にはデンジソウ の生育(1993年10月、水田光雄発見)も見られる。 1999年このデンジソウの水田が宅地化することか ら,市民団体(あーす・いたみ)に働きかけ,市 役所の協力等も得られ、保護活動が行われている. オニバスについても毎年観察会が開催され、保護 意識が高まってきている. 都市化が進む伊丹市に 「オニバス」、「デンジソウ」、今回の「ツツイトモ」 と、保護上重要な位置にある植物が3種類も生育 することは、大変珍しいことと考えている. オニ バス、デンジソウの2種類は、保護の対象として、 市民(市政)の理解が得られている状況にある. 今回の一見見劣りのするツツイトモについて、ど の様な方策があるのか、悩んでいる状況にある. 会員諸氏のご意見をお聞かせ願えれば幸いと存じ ます.

文 献

水田光雄, 1999. 神戸でツツイトモが生育, 水草研究 会会報 68:21-22.